

# 福井大学AO入試入学者の学業成績・学生生活

大久保 貢, 都司 達夫 (福井大学アドミッションセンター)

福井大学AO入試入学者の学業成績と学生生活の追跡調査を行った。その結果、AO入試入学生は共通教育科目において前期日程、後期日程入学生より優位であり、また、専門基礎科目において前期日程、後期日程入学生より成績が低下している傾向が分かった。一方、学生生活の意識調査ではAO入試入学生は前期日程、後期日程入学生と比較して、より積極的に取り組む意欲があることが判明した。

## 1. はじめに

18歳人口の減少により大学教育の急激な大衆化が進むとともに、大学入学志願者のバックグラウンドが極めて多様化している。このような状況に対応するため、大学側として従来の学力試験（前期日程、後期日程）だけでなく、AO入試や推薦入試など多様な選抜基準を用いた入学者選抜試験が全国的に増加している。特にAO入試入学生は特別に大きな人的・時間的・経済的資源を投じて選拔され、そのため学内では周囲に良い影響を与えるリーダー的存在としての活躍が期待されている。その結果、「大学教育に耐える基礎学力は大丈夫か」とか「期待したように積極的にしかも目的を持って大学生活を送っているか」など、多様な選抜基準によるAO入試に対して不安や見直しを求める声も学内のみならず、高校教員や保護者などからも出始めている。

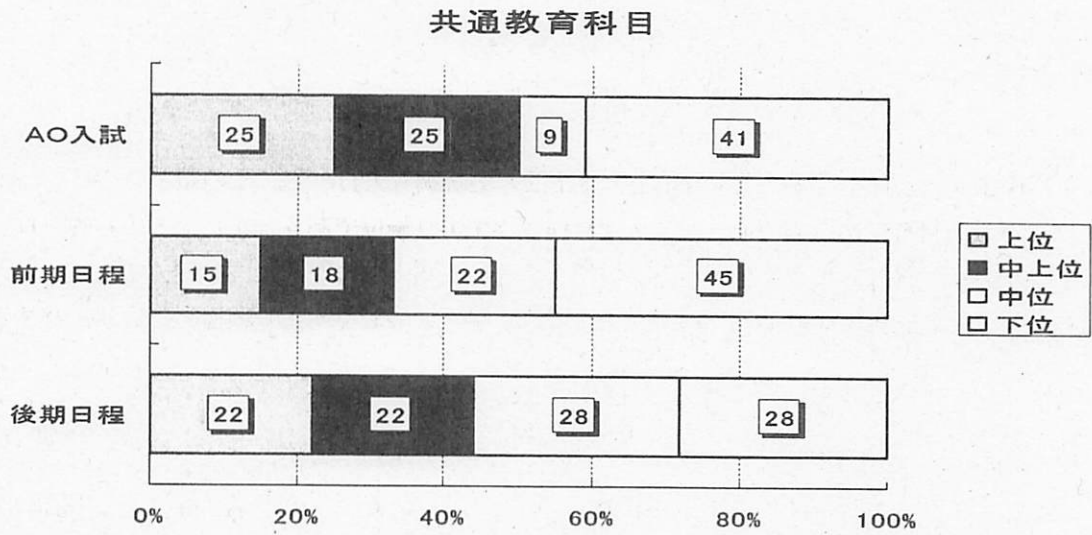
本学工学部では平成13年度入試よりAO入試を導入（工業高校生徒対象）した。平成14年度入試より普通科高校に拡大し、本格実施した第Ⅱ期生は現在、4年生である。このAO入試が前期日程、後期日程とともに入学者選抜の枠組みを構成する第3の柱になりつつあることは否定できない。そこで、AO入試入学生の学業成績や大学生活の追跡調査はAO入試選抜方法の妥当性を検証する有力な

手段である。本報告では大学教育の前半部分において入学生の学業成績や大学生生活状況を追跡した結果に基づいて、AO入試を中心として様々な入学者選抜方法の点検・評価を行い、それらの有効性を探った。

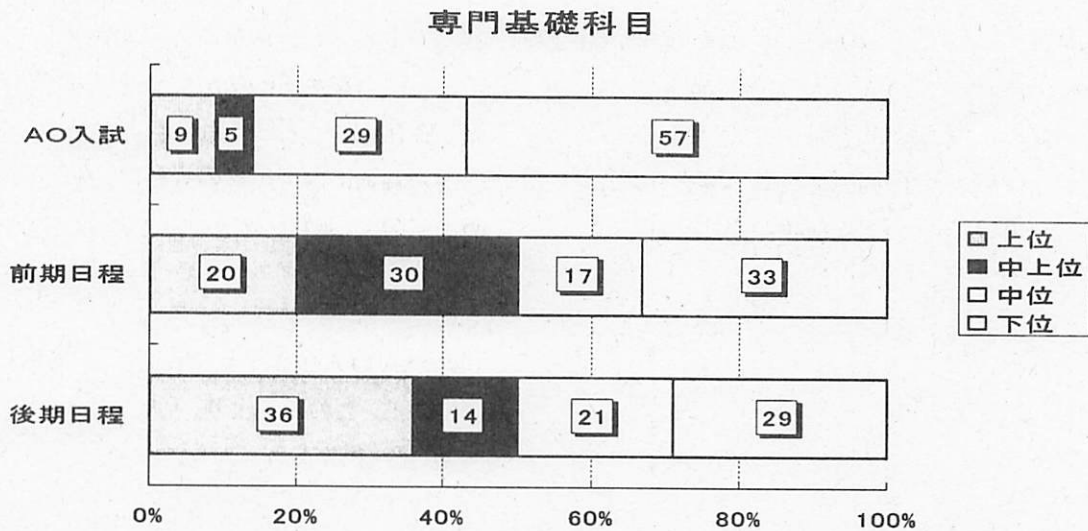
## 2. 学業成績の追跡調査

AO入試入学生の学力については選抜過程で通常の学力試験があまり実施されていないことに由来する懸念が社会のみならず学内にも存在している。これまでAO入試入学生の学力論議にはデータの裏付けのある議論があまりなく、最近、数学のステップアップ（補習授業）のデータが出てきたところである。それによると、ステップアップの受講生の約6割がAO入試入学生であるとの報告[1]されている。このことより、「AO入試入学生は前期日程、後期日程より学力が低い!」とか、「AO入試は定員を埋めるだけの入試か?」など学内教員から厳しい意見が出始めている。

そこで、AO入試入学生の入学後1年間の学業成績を前期日程、後期日程入学生のそれと比較を行った。入学者選抜方法別に修得した成績のうち、優を3、良を2、可を1として、各科目の単位数に乗じて得た積の合計の学業成績順位を図1に示す。



A学科の入学者構成割合 (AO入試 18%、前期日程 56%、後期日程 26%)



B学科の入学者構成割合 (AO入試 26%、前期日程 57%、後期日程 17%)

図1 入学者選抜方法別の学業成績

図1の成績区分(上位、中上位、中位、下位)は、上位(上位20%)、中上位(上位21~40%)、中位(上位41~60%)、下位(上

位61%~最下位)である。工学部(全学科:8学科)の平成15年度入学生(558名)の入学者選抜方法別に学業成績(共通教育科目、

専門基礎科目)を追跡調査した。その結果、工学部全般的に共通教育科目においてAO入試入学生の成績は前期日程、後期日程入学生より優位である傾向がわかった。その一例としてA学科(入学者69名)の共通教育科目(26単位)の結果を図1に示した。一方、専門基礎科目において、工学部全般的にAO入試入学生の成績は前期日程、後期日程入学生よりやや低下している傾向がわかった。その一例として、B学科(入学者82名)の専門基礎科目(16単位)の結果を図1に示した。この専門基礎科目の結果はこれまで報告[1]されている数学のステップアップ受講の結果と一致している。また、他大学においても同様な結果が報告[2]されている。

それでは、なぜ、AO入試入学生の専門基礎科目の成績が低下しているのか、その要因を探ってみた。AO入試PRのため在学生の出身高校(北陸3県約50校)を訪問し、進路指導部教員に卒業生の入学後の学業成績を報告した。そして、AO入試入学生の専門基礎科目の成績が低下している要因について議論を行った。その結果、AO入試の実施時期が成績低下の大きな要因であることが指摘された。それは受験生にとって高校3年の9月にAO入試出願、10月に1次試験、11月に2次試験、12月に合格発表と、AO入試により高校3年2学期の学習がおろそかになっていることである。この高校3年2学期とはセンター試験に向けて高校の学習をまとめ上げる重要な時期であると指摘を受けた。ある進学校では高校3年2学期末までにセンター試験の模擬試験を10回ほど受験し、自分の得点力を知り、志望校に合格するために集中的に勉強する重要な時期であると指摘された。AO入試を高校3年2学期に実施していることが受験生の高校での学習に支障をきたしていることが明らかになった。

もう一つ、高校訪問して学生の学力問題に関して明らかになったことがある。それは学生の入学後の成績が高校での成績と相関が高いことである。これまで学業成績の追跡調査の一環として入学後の成績と大学入試の成績を比較したところAO入試、前期日程、後期日程とも相関がなく、入学後の成績が何に相関しているのかを探っているところであった。

このように学生の学力低下問題を大学だけで解決するのは困難であり、高校側と意識的な情報交換などが必要である。言い換えれば、入試以外に接点のなかった大学と高校が同じテーブルにつき、問題点への認識を深め、共同で解決していく必要に迫られているのである。

### 3. 大学生生活の意識調査

一方、入学後の追跡調査として、学業成績以外の視点での評価を試みた。ここでは工学部(全学科)の1年生(AO入試入学生43名、前期日程入学生233名、後期日程入学生157名 合計433名から回答)を対象に入学3ヵ月後にアンケート調査を実施した結果から①学習状況、②入学後の目的意識、③学生生活の満足度の3つの結果について報告する。

#### ① 学習状況について(図2)

設問：本学での勉強について、どう思いますか？

1. すべての科目について努力して勉強したい(すべての科目勉強)
2. 興味や関心のある科目は勉強しておきたい(興味の科目勉強)
3. 留年しない程度に一応努力したい(留年しない程度)
4. 成績は気にせず、のんびりとやりたい(のんびり勉強)
5. その他(その他)

「本学での勉強について」の設問では、AO入試入学生の評価が前期日程、後期日程よりも明らかに高い評価を行っている。また、前期日程と後期日程との差はあまり無かった。

「大部分の力を勉学に注ぐ」の項目においても、同様の差が確認できておりAO入試入学生の学習に対する意欲の評価は高い事が確認された。

② 入学後の目的意識について (図3)

設問：本学入学に際し、目的を持って入学されましたか？

1. 明確な目的がある (明確な目的)
2. 漠然としているが、目的はある (漠然と目的)
3. 特に、これと言った目的はない (目的はない)
4. わからない (わからない)

AO入試入学生の98%が入学後に目的を持っているのに対し、前期日程、後期日程入学生はともに73%が目的を持っていることが分った。そして、目的を持たずに入学している割合はAO入試では2%であるのに対し、前期日程では21%、後期日程では24%が入

学後に目的や目標は無かったと回答している。また、AO入試入学生は前期日程、後期日程入学生よりも修士課程、博士課程の希望者が多い傾向にあることが分った。

③ 学生生活の満足度について (図4)

設問：現在、本学の学生となった満足度はどれくらいですか？

1. 入学できて大いに満足 (大いに満足)
2. 第二志望だが、満足 (満足)
3. やや不満だが、諦めている (やや不満)
4. 大いに不満なので他大学再受験を考えている (他大学再受験)
5. わからない (わからない)
6. その他 (その他)

AO入試入学生の58%が大いに満足しているのに対し、前期日程では27%、後期日程では9%が回答し、回答者の度合いは低いことが確認された。一方、不満を感じているのは、AO入試入学生では7%で、前期日程では21%、後期日程では23%であった。そして、ミスマッチで他大学再受験を考えているのはAO入試入学生では見受けられないのに対し、前期日程、後期日程入学生はともに3%見受けられた。

AO入試

前期日程

後期日程

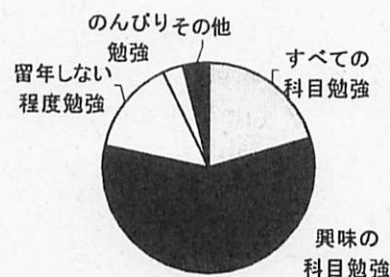
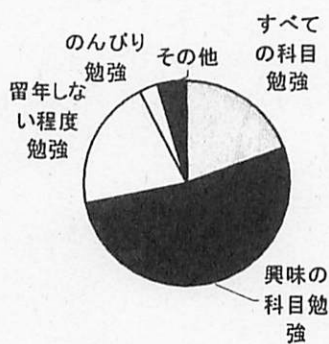
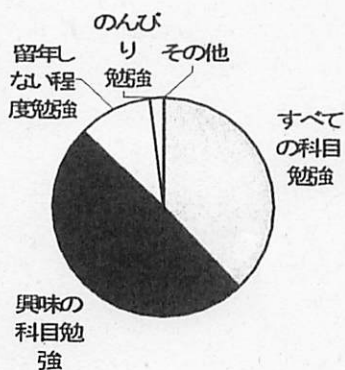


図2 学習状況についてのアンケート結果

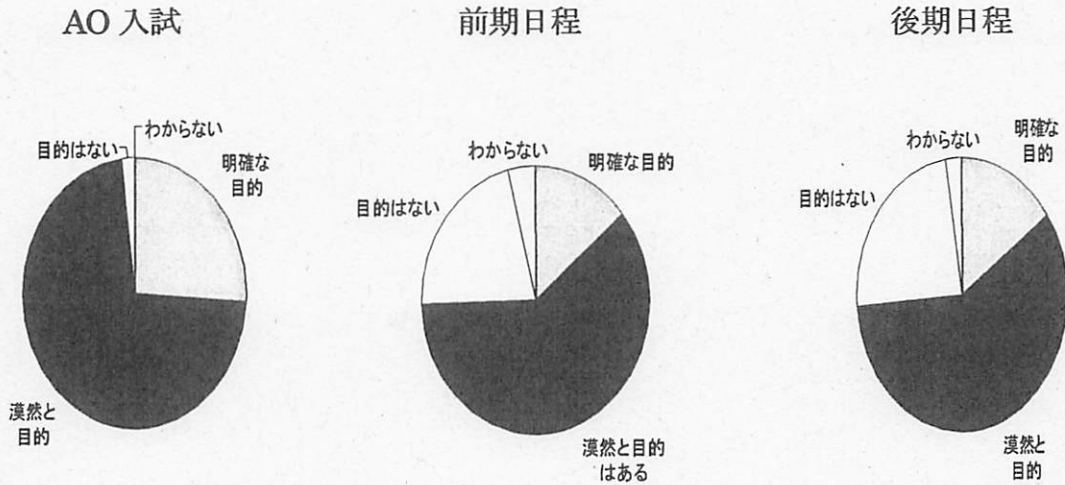


図3 入学後の目的意識についてのアンケート結果

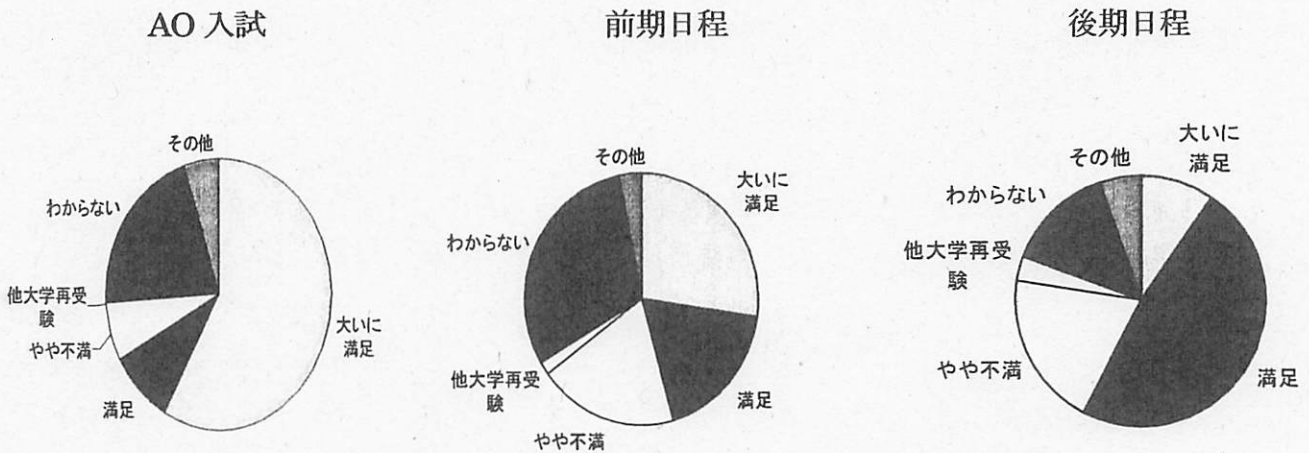


図4 学生生活の満足度についてのアンケート結果

以上のことから大学生活についてAO入試入学生は前期日程、後期日程入学生と比較してより積極的に課題に取り組む意欲があり、当面の学力上のテーマや将来についてより明確な目標や目的意識を持つなどの特徴が示さ

れた。そしてAO入試入学生の大学生活状況の特性においてネガティブな情報は得られず、むしろ肯定的に受けとめられるような情報が得られた。これはAO入試入学生が志望校決定時に、「入りたい大学」をめざしたため、入



学後も将来の自分の夢に向かって勉学の意欲を持ち続けていることを示唆していると考えられる。一方、前期日程、後期日程入学生は偏差値で「入れる大学」群を探し、その中から知名度やイメージで志望校を決定したため、大学に合格したとたん勉学の目的を見失ったことが考えられる。

[2] 白川友紀 (2004) 「筑波大学AC入試追跡調査 -卒業までの4年間の総括-」 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第25回大会研究発表予稿集 143-148

#### 4. まとめ

入学者選抜方法別による入学後の学業成績の追跡調査より大学教育の前半部分において、AO入試入学生は共通教育科目において前期日程、後期日程入学生より優位であり、一方、専門基礎科目において成績が低下していることがわかった。大学生生活況調査ではAO入試入学生は前期日程、後期日程入学生と比較してより積極的に取り組む意欲があり、ネガティブな情報は得られず、むしろ肯定的に受けとめられるような情報が得られた。

今後のAO入試入学生の追跡調査としては大学教育の後半部分での専門教育の成績、就職、大学院進学の実績、大学院入試の成績など多面的な観察によって情報を増やしていく必要がある。そして、最もAO入試らしい「情意」についての検証も行わなければならない。特にAO入試入学生が周囲の学生や地域との関わりや過去の学生との比較した人間的特徴などの調査が重要であると考えられる。そして、4年生における研究室配属後に深い関わりを持った指導教員が抱いた印象などを調査することにより、「情意」についての検証が部分的に検討できると期待される。

#### 参考文献

[1] 古閑義之 (2004)、「数学教育懇話会の最近の活動から」、福井大学工学部FDフォーラム第5号、8